平成 30 年度　考古学セミナー　入場無料　聴講無料

あいちの考古学 2018

2018 年 11 月 17 日（土）・18 日（日）

主催　名古屋市博物館　（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

愛知県内及び近隣の考古学の最新情報をお届けします。
大学考古学研究室・各教育委員会や調査団・市民団体などの活動の発表会です。
入場・聴講共に無料です。ご興味のある方、是非ともご参加ください。

11 月 17 日（土）13 時から 16 時 30 分（12 時 30 分開場）
◎プレゼンテーション

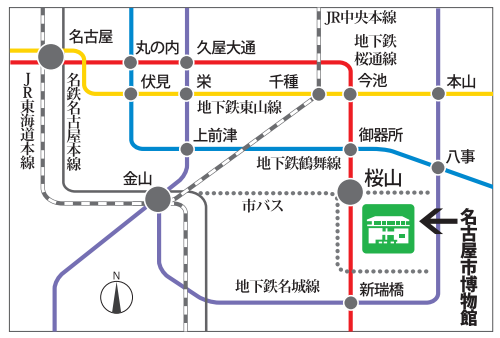
11 月 18 日（日）10 時から 15 時 30 分（9 時 30 分開場）
◎プレゼンテーション（10:10-11:10）

◎両日ともにポスターセッションを開催

会場　名古屋市博物館

講堂（定員220人　先着順）
展示説明室（入退室自由）

＊手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の２週間前までに名古屋市博物館までお知らせください。



〒467-0806
愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
電話 052-853-2655／Fax 052-853-3636
http://www.museum.city.nagoya.jp/

<<交通案内>>　＊公共交通機関をご利用ください。
地下鉄（桜通線）
「桜山」下車　　４番出口から徒歩５分

バス　金山総合駅発　名古屋市営バス
金山14系統（桜山経由）　「博物館」下車

11 月 18 日（日）**特別セッション**　12 時 30 分から 15 時 30 分

気候変動と弥生社会

遺跡から出土する樹木年輪の酸素同位体比から、日本列島における過去 2600 年におよぶ 1 年単位での気候の変化をあきらかにする研究が進んでいる。弥生時代前期から中期前半にかけての乾燥化と気候の温暖化は濃尾平野にいくつかの巨大な集落を出現させた。また、弥生時代中期の終わり頃からの急激な湿潤化と寒冷化は伝統的な弥生集落を解体させるとともに、古墳時代という列島規模での新たな階層化社会を産み出すきっかけとなった。

今年の考古学セミナーでは、この研究のプロジェクトリーダーである総合地球環境学研究所の中塚武教授を招いて、私たちの地域における代表的な弥生集落に暮らした人々が気候変動とどのように向き合ってきたのかを考えてみたい。

◉基調講演

中塚　武（総合地球環境学研究所教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授）

「日本史の命運を左右した気候変動 －樹木年輪の酸素同位体比が語るもの－」

◉基調報告１「朝日遺跡の状況」原田　幹（愛知県教育委員会）
◉基調報告２「西志賀・平手町遺跡」永井宏幸（愛知県埋蔵文化財センター）
◉基調報告３「高蔵遺跡・見晴台遺跡」酒井将史（名古屋市教育委員会）

◉シンポジウム
パネラー：中塚　武、原田　幹、永井宏幸、酒井将史
司会：樋上　昇（愛知県埋蔵文化財センター）

【問い合わせ先】
公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/top/

平成30年度　考古学セミナー

あいちの考古学2018

11月17日（土）13時から16時30分（12時30分開場）

◎プレゼンテーション

白樫 淳（（株）アコード）	「敷き詰められた山茶碗～大府市 上入道古窯発掘調査～」
高野夏姫（愛知学院大学大学院）	「古城山窯跡第2次発掘調査報告」
野村啓輔（愛知学院大学大学院）	「愛知県新城市萩平遺跡A地点隣接地第6次調査の成果」
石原 唯（豊橋市文化財センター）	「古代寺院の基壇外装」
井上隼多（名古屋大学大学院）	「尾張国・三河国における陶硯の使用状況」
成瀬友弘（愛知県埋蔵文化財調査センター）	「史跡貝殻山貝塚の調査成果について」
田中 良（愛知県埋蔵文化財センター）	「東海地方を中心とした縄文時代草創期の編年」

11月18日（日）10時から15時30分（9時30分開場）

◎プレゼンテーション（10:10-11:10）

佐久間真子（愛知県陶磁美術館）	「犬山焼にみる『仙境図大皿』を読み解く」
中川 永（豊橋市文化財センター）	「吉田城確認調査について」
清水政宏（四日市市教育委員会）	「三重県四日市市 国史跡 久留倍官衙遺跡公園」

◎両日ともにポスターセッションを開催

愛知県埋蔵文化財センター	「設楽地域の発掘調査成果」
松田 繁	「赤日子遺跡の出土遺物」
銅坂有紗	「桜佐下五反田遺跡について」
大西 遼	「尾北窯出土の白瓷の基礎的研究」
宮澤浩司	「平成29年度 畑間・東浦遺跡の発掘調査成果について」
川崎みどり	「安城市指定史跡 塚越古墳の発掘調査成果について」
吉田真由美	「鈴鹿市上箕田遺跡の絵画土器」
青木 修・佐久間真子・井上あゆこ・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟	「犬山焼にみる『仙境図大皿』を読み解く」
大塚友恵	「入鹿切れから150年、その被害を再考する」
林 順	「2018年度 豊田市伊保古瓦出土地（伊保白鳳寺）の発掘調査」
白樫 淳	「敷き詰められた山茶碗～大府市 上入道古窯発掘調査～」
小林克也	「土器圧痕レプリカ ワークショップ」
高橋 敦・久保光徳・桃井宏和	「物の形の意味を探る ―民具における樹種と構造計算からの検討と出土遺物への応用―」
加藤 達	「デジタルカメラを使用した3Dモデル作成と文化財実測への活用」
西村誠治・赤塚次郎・植木 萌	「文化遺産カード『v弐カード』の制作と今後の展望について」
愛知県史編さん室	「愛知県史の販売」（2日目のみ）
考古学フォーラム	「考古学フォーラムのご案内」

11月18日（日） 特別セッション 12時30分から15時30分

◉基調講演

中塚　武（総合地球環境学研究所教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授）

「日本史の命運を左右した気候変動 -樹木年輪の酸素同位体比が語るもの-」

◉基調報告1「朝日遺跡の状況」原田　幹（愛知県教育委員会）

◉基調報告2「西志賀・平手町遺跡」永井宏幸（愛知県埋蔵文化財センター）

◉基調報告3「高蔵遺跡・見晴台遺跡」酒井将史（名古屋市教育委員会）

◉シンポジウム

パネラー：中塚　武、原田　幹、永井宏幸、酒井将史

司会：樋上　昇（愛知県埋蔵文化財センター）